

日本の未来をひらく 現代ビジネス学科の観光学

人と人をつなぎ、東北と他地域をつなぎ、日本と世界をつなぐ人材になる

観光学の魅力

年間10億もの人々が国境を越えて移動し、観光が「最大の産業」と称される21世紀。宿泊や旅客輸送を含めた観光ホスピタリティ産業は、日本の経済成長の担い手として期待を集めています。また、人々を魅了する事物があれば即座に観光商品化される今日、観光は世の中のありさまを映し出す鏡でもあります。観光学は、経済・社会・文化など多様な視座から観光を研究して、ビジネス機会の創出や拡大を導く、チャレンジングな学問です。



「観光立国・日本」を目指して

日本が観光客誘致を本格化したのは観光庁を創設した2008年頃からで、諸外国に比べて半世紀遅れている。いわば「観光後進国」だった日本の観光業には、多くの問題があります。外国人を受け入れるノウハウの蓄積が少なく、優秀な人材が不足しているのです。価値観が異なる訪日客をもてなし、日本の文化や自然の価値を外国人にも分かりやすく観光商品化する。そのためには、ビジネスと文化の両面から観光を学んだ人材が必要です。



多面的で総合的な学び

現代ビジネス学科が提供する観光学カリキュラムの特徴は、東北地方でもトップクラスの多面性と総合性です。ビジネスや経済に加えて、文化、社会、人と人との関わり、自然環境などの多様な観点から、観光を考察します。地域振興や多文化共生など隣接分野の科目を併せて受講すれば、さらに理解が深まります。本学科が目指すのは、既存の常識の枠を打ち破って、新しい観光、新しいビジネスを創造できる人材の育成です。



実践から学ぶプロジェクト型学習

「ビジネス実践実習」(2～3年次)では、企業・自治体とのコラボやビジネスにかかわる様々な活動を通じて、実践力を醸成します。例を挙げると、観光企画を立案するグループが、JTB主催の「大学生観光まちづくりコンテスト」で優秀賞を受賞しました。

観光学を専門とする教員によるゼミナール

「ビジネス研究演習」(2～4年次)では、観光にかかわる書籍や論文を読んで議論したり、各自が興味関心のあるテーマについて研究発表をするなど、観光について主体的に学んでいきます。

こんな授業を受けられます ※一部のみの紹介です

観光文化論 近代観光の成り立ちを理解した上で、各地の文化や伝統が商品化されて売られる／買われる現象として、観光を考察。

観光ホスピタリティ論 人をもてなすビジネス(接客サービス)の可能性と困難を「経験消費」や「感情労働」の観点から考察。

観光地理 観光の仕事で必要な地理的事象を学び、地域間の移動に関わる実務的な知識を習得する。国家資格関連の内容を含む。

観光まちづくり 観光による地域活性化の取り組みの変遷や課題を理解し、将来のまちづくりに必要な視点や方向性を考える。

観光英語 「観光英語検定 3級～2級」合格を目指す実践的授業。



宮城学院女子大学
MIYAGI GAKUIN Women's University